

全体総括

○計画期間;平成20年11月～平成25年3月(4年5月)

1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

認定された基本計画に基づき『来て、観て、歩けば、住みたくなる湯町(まち)』を目指して各事業を実施したところ、回遊・集客の拠点整備や小路(しゅうじ)の整備により豊前街道の歴史的町並みの面的整備が図られ、減少傾向にあったまちなかの通行量が増加した。

本市の中核事業であるプラザファイブ地区における「プラザファイブ再生事業」が完了し、平成22年3月、商業ビル「温泉プラザ山鹿」がリニューアルオープンした。当初から、時を同じくして起こった世界同時不況の煽りを受け、テナントリーシングが思うように進まず、全体店舗の約80%前後の充足率で推移していたが、平成25年5月にキーテナントが撤退し、非常に厳しい状態となった。

しかしながら、プラザファイブ地区のもう一つの事業である「さくら湯再生及び公園整備事業」は、平成24年11月に完成し、オープニングイベントでは、周辺商店街が積極的に企画運営し、大勢の市民と共に盛会に行われた。現在では地域住民を中心にまちづくり機運も高まり、周辺商店街を中心に1周年記念イベントも計画されている。

また、さくら湯入湯者はオープン以来、市内はもとより県内外から多くの人を訪れ半年間で10万人を記録し、まちなかの新たなにぎわい創出に大きく寄与した。

そのほか、市街地循環バス運行事業、あいのりタクシー運行事業の利用者は年々増加傾向にある。八千代座第2次整備事業については、さくら湯再生及び公園整備事業との相乗効果もあり、中心市街地活性化の後押しになっている。

他にも、中心市街地区域内の自動車学校跡地に分譲住宅建設(51区画)が進んでおり、現在、39区画が予約済みとなっており、人口・世帯数の増加に加えて、通行量及び消費額の増加も期待できる。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した

②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった  
(計画策定時と変化なし)

④活性化に至らなかった  
(計画策定時より悪化)

基本計画に当初記載された52事業のうち、一部変更(削除)を行い最終的には51事業となった、「さくら湯再生及び公園整備事業」の実施時期が1年延期したものの、当初の予定どおり完了させることができたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

また、小路(しゅうじ)の整備やさくら湯再生及び公園整備等により、歩行者通行量は増えているものの、世界同時不況の煽りを受けたプラザファイブテナントミックス事業の不調により基準値にも届かなかった指標もあるが、上記「1.」のとおり、集客力のある拠点施設が確立し、中心市街地に、歴史的町並みが整備され賑わいの創出が図られたと考えられる。

### 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(山鹿市としての見解)

活性化を図ることは、行政や商工団体だけでは難しいことから、広く市民の参加を促し、中心市街地全体の活性化への機運を高めていった。これにより、平成22年度から23年度を通して行われた八千代座100周年記念事業やさくら湯開湯記念イベントなど、市民や商店街等が積極的に参画できたことで住民意識の醸成が図られたことが要因としてあげられる。

### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

#### 【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった

④活性化に至らなかった

(計画策定時と変化なし)

(計画策定時より悪化)

山鹿市の中心市街地については旧豊前街道を縦軸に八千代座・千代の園酒造の酒蔵等の古い街並みとともにプラザファイブ再生事業と山鹿市民のシンボル「さくら湯」が平成24年11月に開湯し魅力ある拠点整備が形成されたことは評価できる。

特に、観光によるまちづくりの盛り上がりについては、新たにさくら湯が完成したことにより、商店街や関係団体が市民と連携した各種事業活動の機運が高まり、今後中心市街地活性化事業を推進する上で意識の変化が図られた。

本協議会において中心市街地における通行量調査・来街者や関係事業者へのアンケート調査を基に中心市街地活性化のための各種事業に対する支援を行って来た。

しかし山鹿市中心市街地活性化基本計画の中で、中心市街地の新たな商業機能等の集積を図り魅力ある中心部商業施設の核として交流空間等を整備するプラザファイブ再生事業(温泉プラザ山鹿)は、当初計画で本施設に隣接して建設するさくら湯の同時オープンが大幅に遅れたことと、計画時点から現在に至る商業環境の厳しさが増す中でのスタートとなり、本施設の管理運営主体である協同組合は様々な課題を抱えることとなった。

そこで、平成24年度に中小基盤整備機構による中心市街地商業活性化診断・サポート事業 プロジェクト型の採択を受け温泉プラザ山鹿の協同組合に対する支援を実施し、魅力ある共同店舗(SC)とさくら湯が連携した商業機能の強化を図ることで中心部への集客を促進し魅力ある交流施設としての整備が図られた。

この様に、中心市街地の環境整備は整ったが、大型店、ドラッグストア、コンビニ等の進出により小

売業を取り巻く経済環境が厳しく、さらに経営者の高齢化、後継者不足等による影響等が販売額の減少の要因となり小売業にとって厳しいものがあった。

今後、中心市街地の活性化については、商店街活性化のための各種ソフト事業と八千代座・さくら湯を拠点とした魅力ある市街地の形成を図り、空き地空き店舗対象事業の活用により新規創業者の開業を促す諸事業に取り組む予定である。

## 5. 市民からの評価、市民意識の変化

### 【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった  
(計画策定時と変化なし)

④活性化に至らなかった  
(計画策定時より悪化)

中心市街地活性化のための各種事業を行った結果、取組み前と比較し「まちのようすについて」アンケート調査を実施した。

#### 調査の概要

- ① アンケート調査名 : 中心市街地における市民意識調査
- ② 調査時期 : 平成25年6月
- ③ 調査方法 : 郵送による配布・回収
- ④ 対象者 : 山鹿市民のうち、16歳以上の800人を無作為抽出
- ⑤ 回収率 : 22.4%(回収数179票)
- ※ SA・・・単数回答
- ※ (除不)・・・不明の回答を除く

#### 問1 賑わいのある中心市街地

賑わいのある中心市街地とするために、さくら湯の再生や温泉プラザ周辺リニューアルなどのほか、各種イベントなどを行っています。そこで、これらの事業が始まる前の平成20年(5年前)の中心市街地と比べて、あなたのお考えをお聞かせください

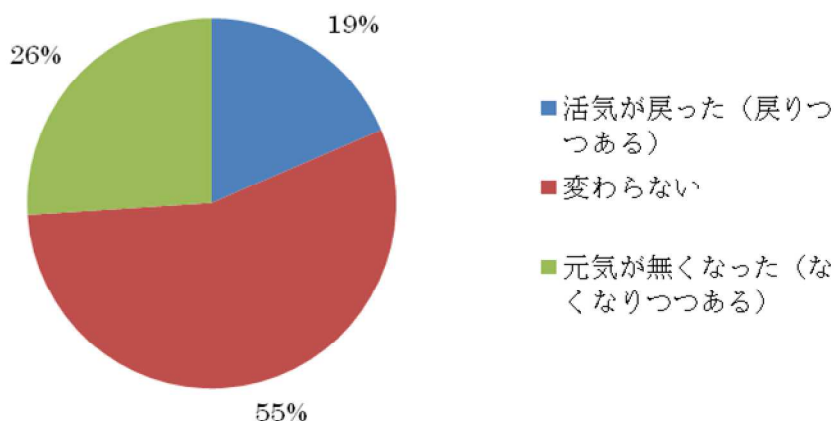
(1) まちのようすについて

5年前と比べた活気

(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	活気が戻った(戻りつつある)	32	17.9	18.5
2	変わらない	96	53.6	55.5
3	元気が無くなった(なくなりつつある)	45	25.1	26
	不明	6	3.4	
	サンプル数(%ベース)	179	100	173

## 5年前と比べた活気



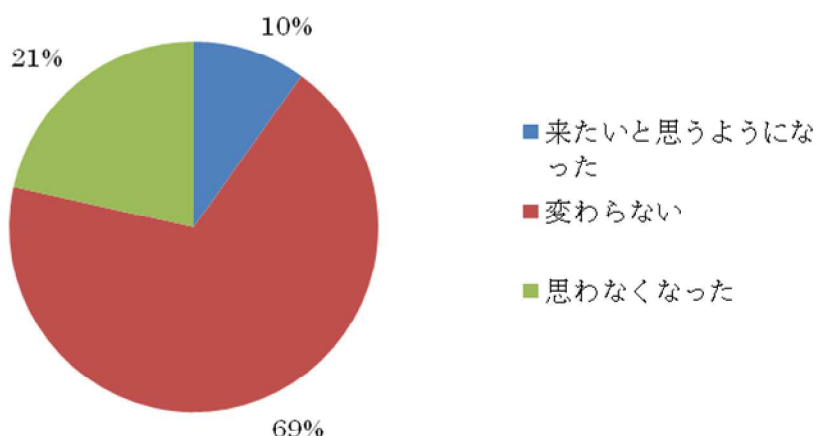
最も多い答えは「変わらない」の 55%であった。活気が戻ったと無くなったでは 7 ポイントの差があり、「活気が戻った」以外(効果がみられない)では 81%となっている。

(2) あなたは中心市街地に来たいか

あなたにとっての活気 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	来たいと思うようになった	17	9.5	9.9
2	変わらない	118	65.9	68.6
3	思わなくなった	37	20.7	21.5
	不明	7	3.9	
	サンプル数(%ベース)	179	100	172

## あなたにとっての活気



最も多いのは「変わらない」で、全体の約 7 割を占めている。中心市街地に「来たいと思うようになった」と「そう思わなくなった」の差では約 11 ポイントとなっている

問2 中心市街地の暮らしやすさ

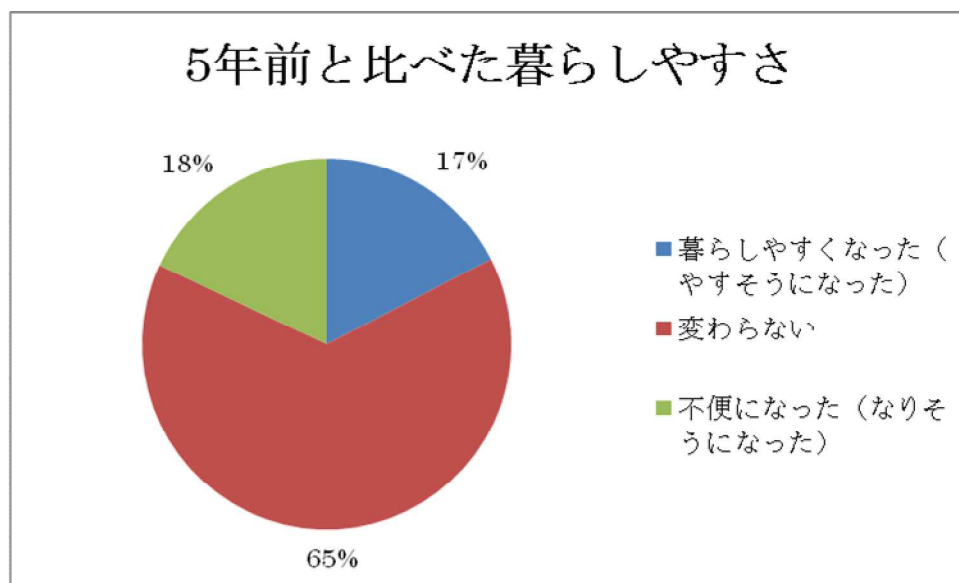
暮らしやすさの向上のための、循環バス運行や豊前街道整備が始まる前の平成 20 年と比べて、あな

たのお考えをお聞かせください

(1) 街のようすについて

5年前と比べた暮らしやすさ (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	暮らしやすくなった(やすそうになった)	30	16.8	17.4
2	変わらない	111	62	64.5
3	不便になった(なりそうになった)	31	17.3	18
	不明	7	3.9	
	サンプル数(%ベース)	179	100	172



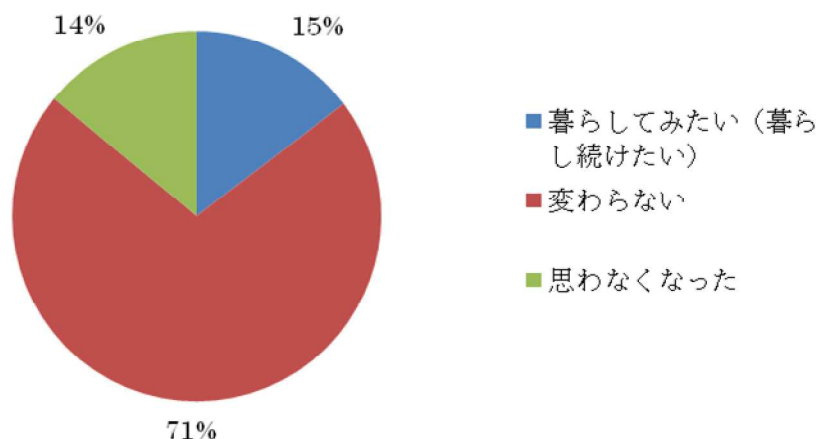
最も多いのは「変わらない」で 65%である。「暮らしやすくなった」と「不便になった」の差としては約 1 ポイントと、賑わいと比べると暮らしやすさの面では評価は中立的であった。

(2) あなたにとって

あなたにとっての暮らしやすさ (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	暮らししてみたい(暮らし続けたい)	25	14	14.6
2	変わらない	122	68.2	71.3
3	思わなくなった	24	13.4	14
	不明	8	4.5	
	サンプル数(%ベース)	179	100	171

## あなたにとっての暮らしやすさ



もっとも多いのは「変わらない」であり、こちらも「暮らしやすくなった」と「不便になった」の差はほとんどない。

市民アンケートの実施結果を総合的に判断すると、全ての項目で「変わらない」という結果が大半を占めている。これは、衰退していた中心市街地に歯止めをかけた結果とも言えるが、中心市街地の活性化が図られたとは推察出来ない。

### 6. 今後の取組

中心市街地活性化計画により、「さくら湯再生及び公園整備事業」、「八千代座第2次整備事業」が完了し、集客力のある拠点施設が確立され、中心市街地に、賑わいの創出が図られた。

しかしながら、郊外店の影響に加え、コンビニエンスストアやドラッグストア等の進展、更には商業者の高齢化、後継者不足等により販売額の減少の要因となり小売業にとって厳しいものがあった。

また、市民アンケートの実施結果も「変わらない」という結果が大半を占めている。

今後は、上記アンケートの結果を踏まえ、商店街が行う各種イベントや新規開業者による空き地・空き店舗の解消を支援しながら、市民が親しみやすい魅力ある商店街づくりを形成すると共に、今後も、中心市街地活性化事業を本市の重要施策と位置づけ、商工団体、商店街、市民と一体となって、中心市街地活性化に係る各種事業を推進する。

(参考)

#### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
交通アクセスの向上で来街機会の充実を図り、山鹿のアイデンティティを活用して来訪者の来街動機を増やす	中心市街地の歩行者通行量(人/日)	4,426	5,400	5,114	H.25.3	B

日常生活に必要な商業施設等の充実を図る	中心市街地商店街の年間小売販売額(百万円/年)	3,654	4,300	3,201	H.25.6	C
---------------------	-------------------------	-------	-------	-------	--------	---

注)達成状況欄 (注:小文字のa、b、cは下線を引いて下さい)

A(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

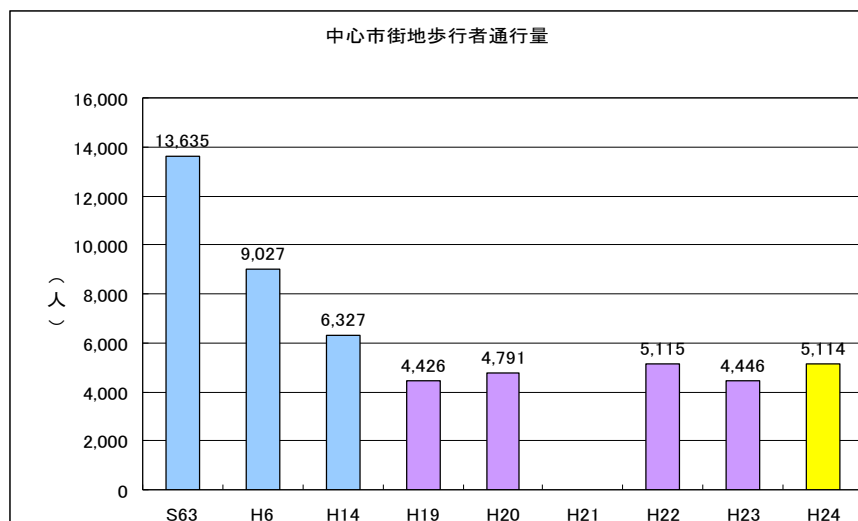
## 個別目標

目標「交通アクセスの向上で来街機会の充実を図り、山鹿のアイデンティティを活用して来訪者の来街動機を増やす」

### 「中心市街地の歩行者通行量」

※目標設定の考え方基本計画 P50～P55参照

#### 1. 目標達成状況の総括



年	歩行者通行量 (人/日)
H19	4,426 (基準年値)
H20	4,791
H21	—
H22	5,115
H23	4,446
H24	5,114
H24	5,400 (目標)

※調査方法:歩行者通行量調査

※調査月:平成25年3月実施

※調査主体:山鹿市中心市街地活性化協議会

※調査対象:歩行者、中心市街地8ポイント、平日・休日の合計平均

※その他:平成21年はプラザビル工事に伴い6ポイントでの調査のため対象外

#### 【総括】

歩行者通行量は、温泉プラザ山鹿のテナントリーシングが思うように進まず、目標値には達していないが、基準値を上回ることはできた。

八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿周辺の賑わい拠点整備により、観光、買物また交流(地域活動)の場として当該地区の集客性が高まり、歩行者通行量の増加につながっている。

また、イベント実施(がんばる商店街支援事業)による中心市街地の魅力の創出や市街地循環バス、あいのりタクシー、計画事業外ではあるが YOKARO バス等の運行により中心市街地への訪れやすさの向上による効果も発現している。

加えて、まちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、中心市街地の魅力が向上し訪れる人の増加に繋がっている。



## 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

### ①. 市街地循環バス運行事業(山鹿市)

支援措置名及び支援期間	該当なし ※平成20年度のみ『まちづくり交付金』の支援措置有り
事業開始・完了時期	事業開始:平成19年12月 ※事業継続中
事業概要	主に公共交通が整備されていない地域の高齢者をはじめとした交通弱者の生活交通の確保に関する社会実験を行うことで、中心市街地への集客促進や地域内の回遊性を高める。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量の増加数 41人/日 (最新値)歩行者通行量の増加数 25人/日
達成状況	目標値は達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	高齢化の進展により交通弱者は増加していると思われるが、自家用車での移動が依然としてメインであり、バス利用者が限られたため。また1日当たりの運行便数を1便減らした事に加え、郊外の大型商業施設や医療機関での乗降が多く、中心市街地内での乗降は全体の24%程度(当初35%想定)にとどまったため(H24.6乗降調査より)。
計画終了後の状況(事業効果)	平成19年度から試験運行を開始した「市街地循環バス」は、一時利用の低迷が見られたが、乗降調査などを重ねて利用者の声を改善に反映させてきた結果、平成24年度は運行開始以来最も多い年間利用者を記録するなど、市街地内の回遊手段として定着してきている。
市街地循環バス運行事業の今後について	今後は利用実績を見極めながらではあるが、当面は運行継続に努める。 平成24年6月の乗降調査を受け、平成24年10月より回数券の発行を実施している。

### ②. あいのりタクシー運行事業(山鹿市)

支援措置名及び支援期間	該当なし
事業開始・完了時期	事業開始:平成20年10月 ※事業継続中
事業概要	高齢者等の通院・買物等、車を利用できない者の日常生活の移動手段を確保することにより、地域の活性化・中心市街地への集客を見込む。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量の増加数 3人/日 (最新値)歩行者通行量の増加数 25人/日
達成状況	目標値を大きく上回ることができた
達成した(出来なかった)理由	平成23年度に市内にある交通不便地域全域にあいのりタクシーを導入したことにより、周辺住民の中心市街地までの交通手段が確保され、利用者が伸びたため。
計画終了後の	平成20年度から運行を開始した「あいのりタクシー」は、現在では市のほぼ

状況（事業効果）	全域をカバーしており、いずれの地域においても利用者は年々伸びている。具体的な数値は推計するしかないが、中心市街地への集客促進、回遊性の向上にはある程度寄与したと思われる。
あいのりタクシー運行事業の今後について	今後も利用者の声を聞きながら、継続して実施していく。

③. プラザファイブ再生事業（施設整備事業（温泉プラザ山鹿管理組合法人、温泉プラザ 建替え組合）、（テナントミックス事業（協同組合山鹿温泉商店街））

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業、戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金／平成18年度から平成21年度
事業開始・完了時期	平成18年度から平成21年度
事業概要	本市商業の核施設である再開発ビル「プラザファイブ」をコンパクトにリニューアルし、店舗の再編、商業機能等の充実を図ることで、魅力ある中心市街地の商業核、交流空間が再生され、周辺商店街への波及効果を見込む。
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量の増加数 988人／日 （最新値）歩行者通行量の増加数 346人／日
達成状況	目標値は達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	プラザファイブ地区における「プラザファイブ再生事業」が完了したが、金融危機を背景とした経済状況の悪化や、「さくら湯再生及び公園整備事業」が1年延期となったことから、当該ビルのリーシング活動を妨げる一因となり、テナントリーシングが思うように進まなかった。 また、メディカルフィットネス等の入店があり調査対象となる小売店舗の売り場面積も当初計画より減少した。加えて、核店舗の集客力不足、売上げ不振も達成できなかった要因である。
計画終了後の状況（事業効果）	温泉プラザ山鹿は、オープン当初から全体店舗の80%の充足率で推移していたが、平成25年5月にキーテナントが撤退し、非常に厳しい状態となった。
プラザファイブ再生事業、テナントミックス事業の今後について	プラザファイブ再生事業は実施済み テナントミックス事業は協同組合山鹿温泉商店街内にリーシング委員会を設置し、行政、商工団体も参加して毎週委員会を実施している。

④. さくら湯再生及び公園整備事業(山鹿市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(山鹿市プラザファイブ地区))／平成21年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度から平成24年度
事業概要	山鹿温泉の元湯で、古くから市民に親しまれてきた「さくら湯」を再建し、周辺を公園化することにより、商業施設と一体化した面的整備が図られ、それらの相乗効果により中心市街地の活性化を推進することを目的とする。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量増加数 110人／日 (最新値)歩行者通行量増加数 44人／日
達成状況	現時点では達成していないが、今後の通行量増加が見込まれる。
達成した(出来なかった)理由	「さくら湯」オープン後の利用者は、平成19年度の利用者数(192,279人)を上回るペースで訪れているが、現時点では目標値までは及んでいない。
計画終了後の状況(事業効果)	当該事業により、平成24年11月に「さくら湯」がオープンし、市内外から多くの来場者があり、オープン後半年で年間20万人を超えるペースの入浴客が訪れている。
さくら湯再生及び公園整備事業の今後について	実施済み。 今後、来訪者のニーズに応えたサービス・利便性の向上に努め、中心市街地の観光拠点施設として、近隣商店街や商工・観光関係団体と更なる連携を強化し、官民一体となった取組みによる集客の増加を図る。平成25年度はPRのためのテレビCMを作成する。

⑤. 八千代座第2次整備事業(山鹿市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金、地域活性化・経済危機対策臨時交付金 平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年～平成24年度
事業概要	本市の代表的な観光文化施設である八千代座の、関連施設を整備することにより、市民の相互交流を目的としたコミュニティ活動を支える中核的な施設としての整備が図られ、中心市街地の活性化につながる。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量の増加数 64人／日 (最新値)歩行者通行量の増加数 9人／日
達成状況	平成20年度に八千代座の空調設備を、平成21年度には木戸前広場の整備、平成22年度には八千代座交流施設を建設し、昨年度には交流施設前広場を整備したことで、八千代座が利用しやすくなったことや、平成22、23年度に行った「八千代座100周年記念イベント」等により、催事入場者数について、平成22年度は平成19年度に比べ37%増と効果が見られた。しかし見学者については、八千代座での催事が多く行われていたこともあり、一般の観光客等の見学者の変化は見られなかった。

達成した(出来なかった)理由	歩行者通行量調査が計画期間中の最後の事業である交流施設前広場整備と重なったため達成できなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	昨年度にさくら湯が開業し、今後更に八千代座整備事業を進めて山鹿市の観光の中心となる施設が充実していけば、事業効果は充分にあると考える。
八千代座第2次整備事業の今後について	今後さらに中心市街地の活性化につながるように、平成26年度より、八千代座東側にある、老朽化した長屋の撤去工事、旧事務所の移築整備工事、八千代座東塀復旧工事等の周辺整備を予定している。

### 3.今後について

基本計画に位置付けた事業を積極的に実施した結果、減少傾向にあった歩行者通行量が増加に転じた。

今後は、八千代座やさくら湯及び温泉プラザ山鹿周辺の拠点性を高めるため、周辺商店街が連携したイベント等のソフト事業への支援や空き地空き店舗対策事業を継続的に進める。

また、市民の意見を反映しながら、豊前街道沿いの道路や建築物などの整備をするとともに、交通環境の改善を図り、訪れやすい中心市街地の形成を進める。

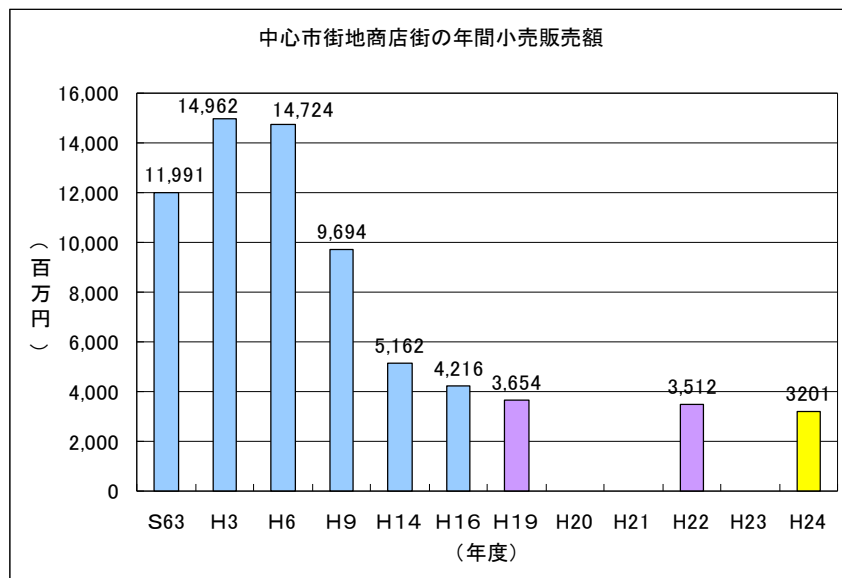
個別目標

目標「日常生活に必要な商業施設等の充実を図る」

「中心市街地商店街の年間小売販売額」

※目標設定の考え方基本計画 P55～P58参照

1. 目標達成状況の総括



年	中心市街地商店街の年間小売販売額 (百万円)
H19	3,654 (基準年値)
H20	—
H21	—
H22	3,512
H23	—
H24	3,201
H24	4,300 (目標値)

※調査方法: 調査員による訪問調査

※調査月: 平成25年6月(平成25年6月1日基準日)

※調査主体: 山鹿市中心市街地活性化協議会

※調査対象: 中心市街地内9商店街

【総括】

商業の活性化に資する事業は概ね予定通り進捗・完了したが、平成24年の中心市街地商店街全体の年間小売販売額は、基準値にも及ばなかった。

プラザファイブ地区における「プラザファイブ再生事業」が完了したが、金融危機を背景とした経済状況の悪化や工事着手の遅れに伴い「さくら湯再生及び公園整備事業」の事業完了時期が1年延期となったことから、当該ビルのリーシング活動を妨げる一因となり、テナントリーシングが思うように進まなかった。また、メディカルフィットネス等の入店があり調査対象となる小売店舗の売場面積も当初より減少した、加えて、郊外店等の煽りを受けた、核店舗の集客力不足、売上げ不振も達成できなかった要因であり、平成25年5月にキーテナントが撤退し、非常に厳しい状態となった。

また、中心市街地全体としても、郊外店の影響に加え、コンビニエンスストアやドラッグストアの進展、更には商業者の高齢化、後継者問題等の要因により空洞化に歯止めがかかっておらず、苦しい状況は脱していない。

しかしながら、中心市街地区域内のサービス業(飲食店等)については、徐々にではあるが売上げを伸ばしている。

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

### ①. プラザファイブ再生事業(施設整備事業(温泉プラザ山鹿管理組合法人、温泉プラザ建替え組合)、テナントミックス事業(協同組合山鹿温泉商店街))

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業、戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金／平成18年度から平成21年度
事業開始・完了時期	平成18年度から平成21年度
事業概要	本市商業の核施設である再開発ビル「プラザファイブ」をコンパクトにリニューアルし、店舗の再編、商業機能等の充実を図ることで、魅力ある中心市街地の商業核、交流空間が再生され、周辺商店街への波及効果を見込む。
目標値・最新値	(目標値)年間小売販売額 3,678 百万円 (最新値)年間小売販売額 903 百万円
達成状況	目標値は達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	プラザファイブ地区における「プラザファイブ再生事業」が完了したが、金融危機を背景とした経済状況の悪化や、「さくら湯再生及び公園整備事業」が1年延期となったことから、当該ビルのリーシング活動を妨げる一因となり、テナントリーシングが思うように進まなかった。 また、メディカルフィットネス等の入店があり調査対象となる小売店舗の売り場面積も当初計画より減少した。加えて、核店舗の集客力不足、売上げ不振も達成できなかった要因である。
計画終了後の状況(事業効果)	温泉プラザ山鹿は、オープン当初から全体店舗の80%の充足率で推移していたが、平成25年5月にキーテナントが撤退し、非常に厳しい状態となった。
プラザファイブ再生事業、テナントミックス事業の今後について	プラザファイブ再生事業は実施済み テナントミックス事業は協同組合山鹿温泉商店街内にリーシング委員会を設置し、行政、商工団体も参加して毎週委員会を実施している。

### ②. 商店街空き地空き店舗対策事業(山鹿市)

支援措置名及び支援期間	該当なし ※H20年度のみ「まちづくり交付金」の支援措置有り。
事業開始・完了時期	平成9年度～ ※事業継続中
事業概要	各商店街に点在する空き地空き店舗を有効利用する新規開業者に対し、借地料等の支援を行うことにより空き地空き店舗解消の一助となり、賑わいある明るい商店街の形成に寄与する。
目標値・最新値	(目標値): 8 店舗 (温泉プラザ山鹿を除く) (最新値): 10 店舗
達成状況	達成できた。
達成した(出来なかった)理由	温泉プラザのリニューアルやさくら湯オープンが新規開業者の出店に繋がった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成20年度に16件、平成21年度に12件、平成22年度に13件、平成23年度に15件、平成24年度に20件の空き店舗補助を実施しており、商店街の空洞化及び商業力の低下に一定の歯止めをかけている。
商店街空き地空き店舗対策事業の今後について	引き続き、空き店舗の解消に向け、事業継続する。

### 3.今後について

プラザファイブテナントミックス事業については、協同組合山鹿温泉商店街内のリーシング委員会を強化し、継続して支援するが、商業者自らの創意・工夫により、既存店の魅力アップを図れるよう関係者が連携して取組みを進めることが重要である。また、今後は小売店舗に限らず市民のニーズに沿った業種の取り込みも選択肢の一つと考える。

市としては、基本計画に掲載したイベント等のソフト事業への支援や空き地空き店舗対策事業を継続的に進めるとともに、観光商業や買物弱者支援といった新たなニーズへの対応を積極的に行う。また、商業者だけの取組みにとどまらず、農商工・医商・産官学連携を推進し、市を挙げての産業振興を進める必要がある。